

東京都品川区

(2)各地方公共団体で行われた実証事業の実施内容及び成果_品川区

【A. 取り組みの全体像】

1.自治体の概要					
	自治体名	品川区	担当部局名	福祉部 福祉計画課	人口 408,071 (人) <2023.11.1現在>
	自治体内連携	庁内連携部局	福祉部(福祉計画課、障害者施策推進課、障害者支援課、高齢者福祉課、高齢者地域支援課、生活福祉課)、子ども未来部(子ども育成課、子ども家庭支援センター、子育て応援課)、保健所(保健予防課、品川保健センター、大井保健センター、荏原保健センター)、地域振興部 等		
		庁内連携内容 ※会議体、情報共有	関係事業・NPO団体の情報を共有するとともに、今後の方向性、支援事業の実施手法などについて議論および決定		
2.形成をめざす地方版連携PFの姿					
従前の取り組み ※重層の取り組み、外部組織連携、地域コミュニティ形成等	<ul style="list-style-type: none"> □ 令和4年度より重層の支援体整備事業への移行準備事業を開始（令和7年度より本格実施予定） □ 【調査】品川区の地域福祉に関するアンケート調査（令和5年3月）。20～30代において、5割程度が孤独を感じているという結果を得た。 □ 【体制】高齢者見守りネットワーク（高齢者分野のネットワーク）等 □ 【支援】ゲートキーパー研修、見守りホットライン、子ども若者応援フリースペース等 	実現したい状態 ※構築する仕組み／支援対象の住民を取り巻く環境	最終的なゴール	<ul style="list-style-type: none"> □ 誰かに、どこかにつながる地域社会を構築するとともに、望まない孤独・孤立を発見し伴走しながら支援できる状態 □ 現在の支援から抜け落ちやすい20～30代への支援体制充実と要支援者が支援を享受できる導線の確立 □ 20～30代のみならず、他の世代への支援体制の拡充 □ 孤独・孤立に関する継続的な支援を実施し今後PFを拡大するために、連携候補となる団体を把握 	
			今年度のゴール	<ul style="list-style-type: none"> □ 20～30代の孤独・孤立課題の把握と、PFの立ち上げ及び取り組み方針の決定 □ 令和6年度以降の計画策定 	
3.地方版連携PFの外部連携体制			4.PF連携による価値や工夫_考え方		
地方版連携PF ※各種団体が「水平的」「包摂的」に集う最も大きな枠組み	参画メンバー	<ul style="list-style-type: none"> • 品川区、当事者等支援を行う民間団体等 		<ul style="list-style-type: none"> □ アンケート調査の結果を踏まえ、若年層をターゲットに決定「品川区の地域福祉に関するアンケート調査」の結果を踏まえ、品川区では、従来の制度の狭間にあった若年層をターゲットにした地方版連携PFの構築を目指す。 □ PF構築にあたり、関係団体や当事者へのヒアリングを実施 品川区では、PF構築にあたり、庁内関係各課、支援団体、孤独・孤立の当事者に対してもヒアリングを実施し、現状の課題やニーズの把握に努め、それらを反映する形でのPFのあり方を検討。支援団体へのヒアリング実施にあたっては、区の職員が当該団体の活動に実際に参加する等の工夫をし、関係性の構築に努めた。 	
	選出・打診時の工夫	<ul style="list-style-type: none"> • 地域福祉計画策定委員会の構成団体との関係性を活かし、当該団体に協力を仰ぐかたちで選出 • 当事者支援を行う民間団体の選出および実態把握を図りながら、福祉分野以外も含めた関係団体等も含めて検討 			
地域協議会 ※特に専門性の高い支援をおこなう団体等で構成	参画メンバー	-			
	選出・打診時の工夫	-			

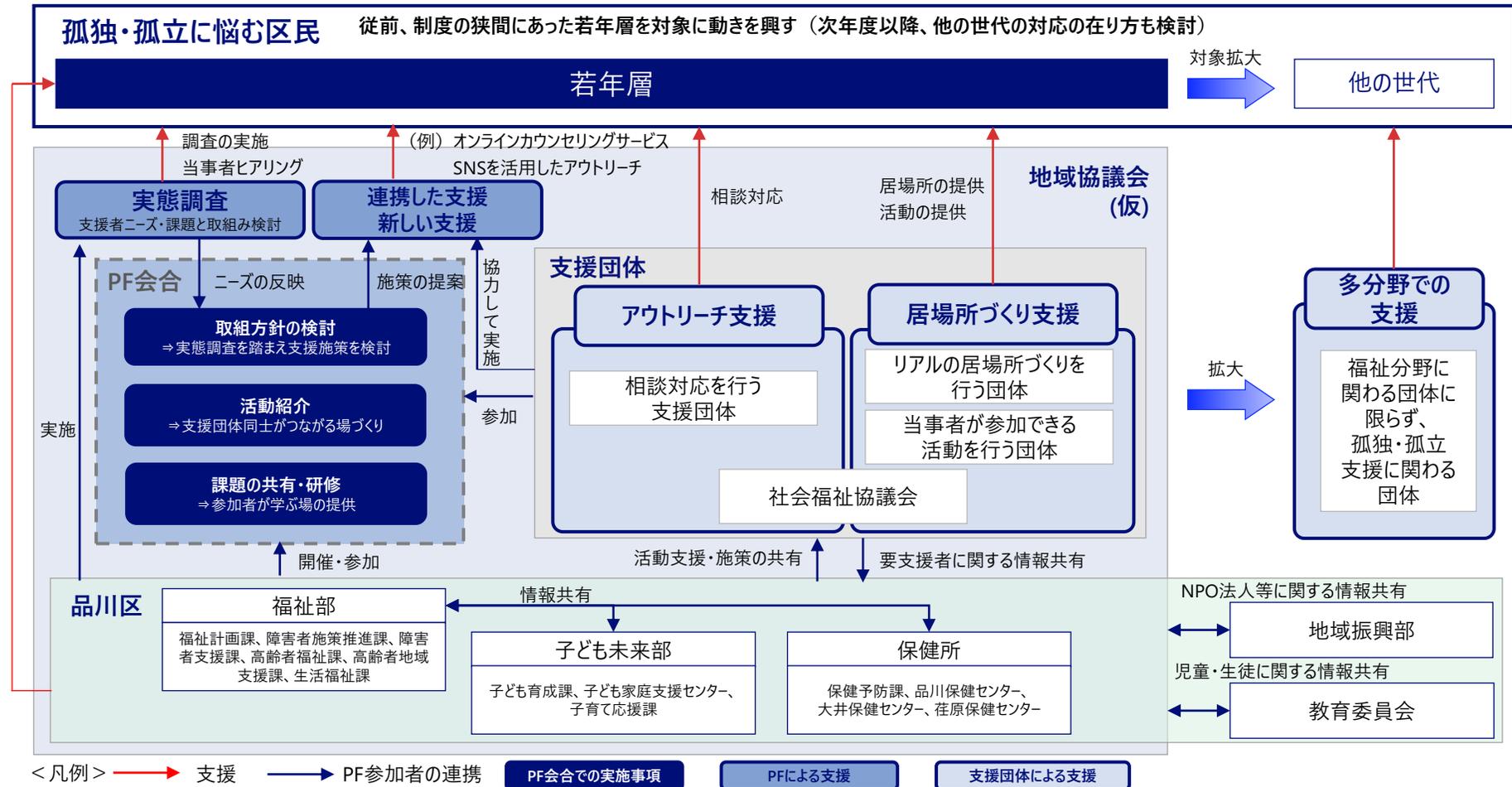


(2)各地方公共団体で行われた実証事業の実施内容及び成果_品川区

【B.連携PFイメージ】

5. 連携プラットフォームのイメージ図

※主な関係者（自治体、連携先支援団体、住民等）、連携における取組内容、連携による提供価値等を記載



(2)各地方公共団体で行われた実証事業の実施内容及び成果_品川区

【C.試行的事業一覧】

6. 本年度に取り組む試行的事業の概要

試行的事業の ポイント・工夫

- これまで実態把握ができていなかった、孤独・孤立の課題を抱える20~30代の課題と施策を明らかにする
- 既存の取り組み・関係性を生かした事業設計をする

事業名称	事業内容	目的／期待効果・KPI	実施時期	発注先
1 孤独・孤立に係る関係団体へのヒアリング面談とPF体制の在り方の素描作成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 20代~30代の若者を対象に支援を行うNPO法人等へのヒアリングを実施した。 ・ 加えて、NPO法人経由で、孤独・孤立に苛まれる当事者へのアプローチを行い、当事者本人から悩みや困りごと等を聴取した。 ・ 区役所内関係部署における現行事業の内容および課題のヒアリング面談を実施した。 ・ 【手法】当事者の事情を考慮し、聴き取りが可能なスタッフに依頼する等【ヒアリング対象となる支援団体】品川区社会福祉協議会、子ども若者応援ネットワーク品川NPO法人はびこね、NPO法人LEGIKA、NPO法人サンカクシャ株式会社マイシエルパ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若年層の孤独・孤立対策に係る主な団体の活動現況が分かるようになった ・ 当事者へのヒアリングを通じて、対象者の現状や課題などのあらましが理解できるようになった ・ 区内関係部署との関係性を深め、官民連携で一体的な支援が可能となる体制構築の土台を作った <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 成果検証結果 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 関係課5箇所、支援団体6団体、当事者11名へのヒアリングを実施した。 ▶ 20~30代の若者の地域とのつながりのニーズや、当事者の居場所づくりの支援者同士のつながり、早期で受けられるカウンセリングへのニーズを把握することができた。 ▶ ニーズから次年度PFの役割およびアジェンダ案を作成した。 </div>	✓ R6.1月 ~3月 上旬	一般社団法人 RCF 396万円
2 孤独・孤立対策に係る講演会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 重層的支援体制整備事業の普及啓発事業の一環として、庁内向けの研修会で、中央大学宮本教授をお招きし、孤独・孤立対策もテーマとして取り扱った。 【講演テーマ】「生活困窮、孤独・孤立をめぐる新たな政策と制度」 【講演者】中央大学法学部 宮本太郎 教授 【開催内容】孤独孤立の現在（講演）、グループディスカッション等 【参加人数】46名 【参加者】福祉部、子ども未来部、保健所、地域振興部、社会福祉協議会、在宅介護支援センター ※重層的参加者である庁内関係課（福祉部、子ども未来部、保健所）に加え、本事業で庁内関係課（地域振興部）、社会福祉協議会、在宅介護支援センター、教育委員会の参加を促した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまで連携ができていなかった庁内各課との関係構築と、各課相互で課題意識等の共有ができるようになった。 ・ PF形成に向けて庁外団体とも関係が醸成された。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 成果検証結果 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 重層的支援体制整備事業の会合に参加する予定はなかった団体として、地域センター、国保医療年金課の職員にも新たに参加してもらうことができた。 ▶ 参加者アンケートの結果、孤独・孤立について理解が深まったと回答している人は95%であった。また、49%の人が、今回の講演会により孤独・孤立は誰にでも起こりうる問題であることを知ったとの回答をしていた。 ▶ 今回参加できなかったものの、全庁に声がけし、財政当局や教育委員会を通じて校長会からも参加したいという意向を聞き取ることができた。今後のつながりづくりのきっかけとなった。 </div>	✓ R6.3.5 (火) 10:00 ~12:00 0	発注なし

7. 次年度以降に向けた事業等の案

※PDCAサイクルに照らして次年度以降に取り組んでいく事業イメージ（あれば）を例挙

- ・ 孤独・孤立対策推進法に基づく「孤独・孤立対策地域協議会」を設置するとともに、協議会構成機関のうちから孤独・孤立対策調整機関を指定することで、自治体だけでなく、地域の関係団体が自主的に連携を続けていくことも狙っていききたい。
- ・ シンポジウムの開催等により、広く区民に孤独・孤立対策推進事業を普及啓発していききたい。

8. 孤独・孤立対策を公表した際の反響

- ・ 関係機関の連携の場の必要性について声があった。
- ・ 民生委員より、孤独・孤立対策の重要性等について町会・自治会等に周知していききたいなどの反響があった。

(2)各地方公共団体で行われた実証事業の実施内容及び成果_品川区

【C.試行的事業一覧】_1.孤独・孤立に係る関係団体へのヒアリング面談とPF体制の在り方の素描作成

概要	<ul style="list-style-type: none">20～30代の若者を対象とする支援団体6団体、関係課5箇所に対して、課題認識や支援の実施状況等に関するヒアリング調査を実施したNPO法人経由で孤独・孤立に苛まれる当事者へのヒアリングを実施した	結果	<ul style="list-style-type: none">20～30代の若者にも地域とのつながりのニーズがあることや、当事者から居場所づくりの支援者同士のつながりを求める声、早期で受けられるカウンセリングサービスがあると良いといったニーズを把握することができた。
	工夫点		<ul style="list-style-type: none">居場所づくり支援を行う支援団体のサポートのもと、当事者へのヒアリングを実施した。

支援団体へのヒアリング結果の概要

以下の様な意見を把握した。

【支援団体における課題認識】

- フリースペースの運営において、**医療機関・保健センター等との連携が必要**だと感じている（フリースペース運営団体）
- カウンセリング等のサポートについて強化の必要がある**と感じている（フリースペース運営団体）
- 品川区との連携を模索していきたい**（キャリア支援団体）
- 上京に伴い、人間関係が希薄になり、就職口でのプレッシャーを感じ、メンタル系の問題を抱えるケースがある、**早い段階でのカウンセリングを行うことで回復を促すことが重要**（カウンセリングサービス提供団体）
- 20～30代の若者において、**仕事ばかりで地域とのつながりがない方が多く、地域のイベントとの連携が必要**と感じている（居場所づくり団体）

【若年層の孤独・孤立に関する課題認識】

- 20～30代の若者において、会社のみにも所属もしくは就業していない、地域との関わりが薄い、または公共のサービスとの接点が少ない

当事者へのヒアリング結果の概要

どんなときに孤独を感じるか

- イベントに行った際に複数人で参加している人が多いと感じたとき
- 仕事していても同僚と年が離れていて話が出来ないとき
- 夜間や土日にひとりきりであるとき
- 孤独であることが多く慣れてしまっている
- 長期間引きこもっているため、誰にも相談ができない

フリースペースと関わったきっかけ

- 家族に(母親に)勧められて**
- 通院している**メンタルクリニック**のカウンセラー経由
- コロナ禍で孤独を感じ、**ネットで調べた**
- 東京都の**ひきこもりダイヤル**

どんなサービス・支援があつたらいいと思うか

- キャリア支援等**が受けられて相談ができる人/**カウンセラー**を利用したい/仕事などの**悩みを相談**できる人
- 体験やイベント**を増やしてほしい/**食事/人との関わり**がほしい
- 土日夜間でも相談ができて安心して過ごせる**場所**が欲しい
- 居場所同士での横のつながり**があつたらいい

【C.試行的事業一覧】_2.孤独・孤立対策に係る講演会

概要

- 重層的支援体制整備事業の普及啓発事業の一環として、庁内向けの研修会で、中央大学宮本教授をお招きし、孤独・孤立対策もテーマとして取り扱う。

工夫点

- 今回参加できなかったものの、全庁に声がけし、新たな参加者を増やすだけでなく、財政当局や教育委員会を通じて校長会等とも今後のつながりづくりのきっかけとなった。

結果

- 参加者アンケートの結果、**孤独・孤立について理解が深まったと回答している人は95%**であった。また、49%の人が、今回の講演会により孤独・孤立は誰にでも起こりうる問題であることを初めて知ったと回答。

ねらい

- 参加しやすい講演会という建付けで今まで直接的な連携はできていなかった課などにも参加してもらうことで、庁内の横連携のきっかけとした。

開催概要

日時：2024年3月5日（火）10:00～12:00

場所：品川介護福祉専門学校

参加者：46名

庁内関係課（福祉部、子ども未来部、保健所、地域振興部）、社会福祉協議会、在宅介護支援センター、教育委員会

※重層の参加者である庁内関係課（企画部、福祉部、子ども未来部、保健所）に加え、本事業で庁内関係課（地域振興部）、社会福祉協議会、在宅介護支援センター、教育委員会の参加を促した。

講演の概要

孤独・孤立対策をテーマとした講演

【講演テーマ】「生活困窮、孤独・孤立をめぐる新たな政策と制度」

【講演者】中央大学法学部 宮本太郎 教授

【開催内容】孤独孤立の現在（講演）、グループディスカッション等

- 講演では、宮本教授より重層支援会議と孤独・孤立対策地域協議会を一体で運営する等、二つの事業を連携させていくことが望ましい話というがあった。
- グループディスカッションでは、①地域共生社会づくりに区民を「まきこむ」にはどうすればよいか②孤独・孤立対策として品川区ができること、実施すべきことは何かというテーマについて8つのグループ（1グループ5～6人）に分けて議論した。

グループディスカッションで出た意見（一部抜粋）

テーマ①について

- ✓ 小中学校の教育に福祉的テーマを取り入れていくことが必要。
- ✓ 必要の情報を見つけやすいように、情報のデータベース化が必要。
- ✓ 地域活動（祭り等）でつながりを作り、地域福祉（助け合い）につなげること。

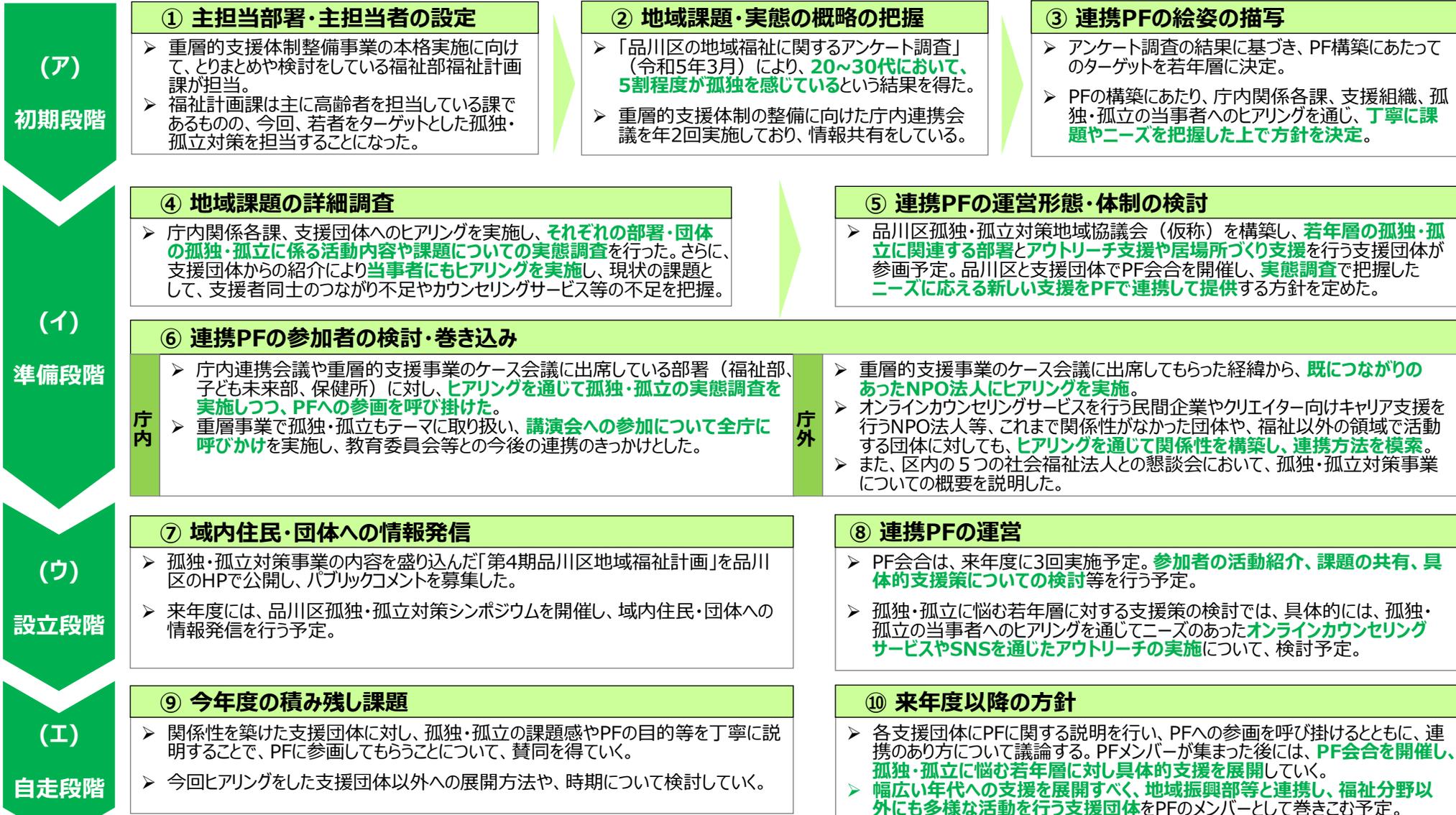
テーマ②について

- ✓ 社会福祉法人、社会福祉協議会の情報を行政機関が把握し、施策への連携を依頼すること。
- ✓ 縦割りではなく、横のつながりのための仕組みづくりを行っていくこと。
- ✓ 対面しなくてもつながれるようなものがあると良い。
- ✓ 他の部署の施策を知り、伝えていけるような仕組みが必要。



(2)各地方公共団体で行われた実証事業の実施内容及び成果_品川区

【D.留意点】



※今年度は、連携PFの設立準備期間であったため、⑦～⑩は設立・自走段階の想定も記載

【E.ブレイクスルー要因】丁寧なコンタクトと活動参加で支援団体との良好な関係性を構築

2023年12月

取り組み課題

- 福祉部福祉計画課は、主に高齢者を担当していたこともあり、孤独・孤立に悩む若年層の抱える課題やニーズ、庁内関係各課や支援団体の孤独・孤立に係る活動内容について十分に把握できておらず、また、PFに求められる役割も定まっていなかったため、庁内での説明等に苦労していた。
- また、参画が期待される支援団体の特定や、団体との関係構築が十分にできておらず、声がかげができなかった。

2024年1月～2月

アクション／ブレイクスルー要因

- 庁内関係各課、支援団体へのヒアリングを実施し、それぞれの部署・団体の孤独・孤立に係る活動内容や課題についての実態調査を行った。
- 特に、支援団体へのヒアリングでは、これまでに関係のなかったNPO法人や民間企業にも思い切ってアプローチした。ここでは、**職員が実際に支援団体の活動に参加したり、ヒアリング以外でも訪問や活動の見学をしたりといった工夫をした。**
- 孤独・孤立に悩む若年層に対してもヒアリングを実施し、生の声を聞きつつ、彼らの抱える課題やニーズの把握に努めた。

2024年2月～3月

その後の変化

- ヒアリングにおいて、支援団体等から連携に向けた前向きなコメントおよび現在の課題や今後必要な連携、支援等についての意見が得られ、PFの役割や開催アジェンダ等のイメージをつかむことができた。
- **職員による活動参加、定期的な訪問、ヒアリングの実施を通じ、今後連携しうる支援団体との良好な関係構築ができた。**